

高知大学

希望創発センターで  
できること

未来を  
本気で  
考える



# 「未来」が 今ほど見えづらい時代は、 きっとない。

私たちの社会における世界観や規範は、  
いつまでも人口が増え、  
いつまでも経済は拡大成長を続けていくという  
大前提をもって作られてきました。

そしていま、21世紀を迎え早くも四半世紀—。  
ひたひたと足許に迫ってきていることがわかっていながらも  
なかなか実感することができなかった  
少子高齢社会がいよいよ牙をむきはじめています。  
打つ手を間違えれば、  
社会の維持すらままならなくなる可能性も否定できません。

私たちは、このことをずいぶん前から認識しておりながら  
「これからの未来を、私たちはどう生きるべきか？」  
という『問い』を立てることを後回しにしてきました。

このことに限らず、私たちの社会は、世界は、  
多くの向き合うべき『問い』を後回しにしているように思います。  
世界に目を向けてみても、  
地球環境問題を筆頭に食糧や貧困の問題などが  
解消される気配はいつまでもありません。



# これからの未来、 私たちは どう生きるべきか？

次の時代を支える人々に希望ある未来を託していくために、  
今を生きる私たちはこの『問い』に謙虚に、  
真剣に、誠実に、逡巡を重ねていく必要があります。

2018年に設立された  
高知大学「希望創発センター」は、  
まさにそのために生まれました。

森、山、海の自然にあふれる高知をメインフィールドに、  
多様な才能や経験を持つさまざまな人々が  
産・官・学や地方・都市といったさまざまな壁を越えて協働し  
複雑で多様な社会への理解を深めていくことを目指しています。

2024年現在、本センターでは、  
特徴的な以下の4つの事業に取り組んでいます。

- 6ページ 希望創発研究会
- 8ページ 人間関係形成インターンシップ(SBI)
- 10ページ OTOYO事業
- 12ページ 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)



# 未来はどうあるべきか？ 私たちが生きる時代の 『問い』を発見する

「よりよい未来社会をいかに創造するか」をテーマに、  
企業社員と学生による5～6名の混成チームが  
各々設定した課題について議論や実証実験を重ねていきます。

狙うところは、課題解決そのものではなく、  
その先にある『問い』を見つけ出す「試行錯誤」のプロセス  
そのものを楽しむということ。

5月から翌3月までの約1年間（合計22日間）にわたる  
高知での対面型ミーティングとオンラインミーティングの中で、  
思いもよらない仮説が生まれる瞬間の《創発》を体験し、  
俯瞰的な問題認識を持つこと、  
幅広い角度から社会課題を掘り下げる力を持つこと、  
具体的な課題設定や解決策の検討提案力を持つことが  
できるように支援を図っていきます。

混成チームには大学教員もファシリテーターとして参加し、  
メンバー間の対話やプロジェクト進行のほか  
本人のキャリア支援などもサポート。

参画する企業社員は30万円／1名で募集しており、  
各々の職場や企業における活動の変革や  
社内外に散在する課題解決に寄与することを目指しています。

## 近年の参画企業

旭化成エレクトロニクス(株)、(株)高知銀行、サントリーフーズ(株)、  
日揮(株)、日本電気通信システム(株)、パナソニック コネクト(株)、  
(株)ダイセル、栗田工業(株)、南海化学(株)土佐工場ほか



希望創発センターの事業①  
希望創発研究会

# 地元企業も学生も 互いに学び合い 未来を考える

高知大学の学生3人が一組となり、  
高知県内の製造業や建設業、給食業、不動産業など  
さまざまな業種の現場で15日間の実務に取り組むプログラム。

人間関係形成インターンシップ(SBI)は、  
一般的なインターンシップと異なり  
学生と企業の双方が互いに成長を見込める  
協働実践力を育成するプログラムです。

「企業で働く」ということがイメージできない学生にとっては  
3人のチームメンバーで共に考え、支え合っていくなかで  
協働実践力を高めるまたとない機会となり、  
「社員を育てる」機会が少ない企業にとっては  
社員のスキルアップはもちろん、  
人材育成手法の改善に役立つ貴重な経験を得ることができます。

実施期間は毎年8月から9月のうち15日間で、  
事前に学生と企業間のマッチングセッションも実施。  
インターンシップのプログラム作成や目標設定に取り組みます。  
また、研修の終了後には目標設定総括塾を開催。  
企業側・学生側双方の視点から  
事前に設定した目標の達成度などを振り返ります。  
(2月から3月に実施する場合があります)

近年の受入企業  
(株)ファースト・コラボレーション、高知機型工業(株)、  
(株)高南メディカル、丸和建设(株)、(有)戸田商行、川北印刷(株)ほか



希望創発センターの事業②  
人間関係形成  
インターンシップ(SBI)

# 限界集落をフィールドに 社会をみつめなおす 自分をみつめなおす

大豊町  
東豊永地区



高知県北部の山間に位置する

大豊町東豊永地区は過疎高齢化が進む全国屈指の限界集落。本事業では、この地区に残る文化や風景を手がかりに今、そしてこれからの未来へと続く地区や社会のありようを思索します。

景観づくりや多世代間の交流、後継者育成、文化継承に取り組む《東豊永希望創発プログラム》では、東豊永地区で活動するNPOや企業と都市部の組織や人々との間のネットワーク化を推進します。

《明日の社会の希望を担う人財プログラム》では、ふだんは大都市等に在住する参加者が東豊永地区に2泊3日のスケジュールで滞在し、山間部ならではの厳しい暮らしや文化、自然に触れることで自分自身との対話を試みると共に社会と自分自身がいかにつながっていくか、社会課題の解決にどのように取り組むべきかを考えます。

## プログラムの構成

- 第一部) 約2時間のオンライン研修
- 第二部) 2泊3日の東豊永での実地研修
- 第三部) 約4時間のオンライン研修

研修参加費 ¥125,000/1名

参加定員 3~6名

## 写真上より順に

- 1枚目/子ども食堂(東豊永希望創発プログラム)
- 2. 4枚目/住民や移住者との懇談(明日の社会の希望を担う人財プログラム)
- 3枚目/高知市子どもたちを招いて里山あそび(東豊永希望創発プログラム)



OTOYO事業

希望創発センターの事業③

# 頭の中のバイアスを取り除く！ 新しい自分に ふれるためのプログラム

地域や学校、大学、企業など社会全体をフィールドに、参加者自身の学びと成長や多様な視点の涵養につながる生涯学習のプラットフォームづくりに取り組んでいます。

## サマーセミナー

「誰でもセンセイ、誰でもサイト」を合言葉に、地域や学校、大学、企業の関係者がセンセイ、サイトになって互いに学び合うプログラムです。

## 対話すなっく／哲学カフェ

「自由」や「愛」など、日頃気にも留めないようなテーマについて本気で語り合い、新しい発見を得るプログラムです。

## オンライン公民館

オンライン上に自分の「好きなこと」や「推しなこと」を自由に教えるセミナーを開くことができるプログラムです。

## 出前養殖プロジェクト

マダイやブリなどの養殖魚を教育現場で一定期間にわたり育て、魚食や漁業について考え、食すプログラムです。



高知大学 SIP



<https://www.kochi-u.ac.jp/kochisip/>

本事業は、2023年度に採択された内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題研究開発テーマ「主体性を醸成する生涯学習プラットフォーム構築と「知」の総合化」における希望創発センターの取り組みです。



希望創発センターの事業④

内閣府戦略的  
イノベーション  
創造プログラム(SIP)



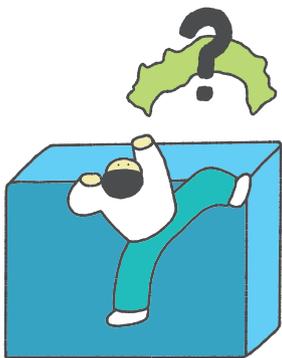
## 学生の声

●希望創発研究会の魅力は、学生と企業人が積極的に意見を述べあうという点にあります。

学生にとって、企業人の考え方や議論の進め方を知ること、年齢や立場をこえてさまざまな人々と協力しながら「0」から「1」を作り出すということは、貴重な経験になると思います。

●高知県出身ですが、自分の知らない「高知」を知ることができました。ふだん研究室にこもりがちな学生にとって、かけがえのない体験になると思います。

●立場を超えた議論の中で、目からウロコが落ちるような多彩な考え方を聞くことができ、物事をより大きな視点で、より多角的にとらえる訓練が自然と積めるようになると思います。



## 社会人の声

●日々の業務や研修だけでは得ることができない経験の連続でした。

社会人として経験を積み重ねる中で、「思考」を引き出すための瞬発力や引き出しの数は増えていたと思うのですが、さまざまな他者との関わり合いを通じた「知の創発」という観点で不足していたことを痛感しました。「自らの意思」を強く持ち、やり切るということは、答えのない時代を生き抜いていくために重要度が増していると思います。

●研究会で過ごした1年間を一言で表すと、「発見」と「自省」でした。基礎セミナーで学んだ、固定観念や既成概念にとらわれない自由な発想を行うための手法は、まさに「発見」でした。この手法は、社内でも共有し業務に活かしたいと考えています。「自省」は、チーム活動などを通じて、他企業の方や学生の皆さんの活躍を見ながら自分自身と向き合った体験のことです。具体的には、リーダーシップやプレゼンテーションの力、論理的思考など、ディスカッションや発表を通じて自身のスキルの棚卸を行うことができました。

## 人間関係形成 インターンシップ(SBI) 参加者の声



●SBIでは、将来のこと、自分のことを考える機会になりましたが、それ以上にチームワークとは何かを考えたり、たくさんの人との出会いの中で新しいことに挑戦したりすることができ、幅広い意味で勉強になったと感じています。

3人のチームで15日間を過ごす中で、自分にはない価値観や考え方を知ることができたこと、客観的に自分の性質を知ることができ、良かったと思います。

●SBIで編成したチームメンバーでは、お互いの今の悩みや個人的な目標、プライベートのことなど、さまざまなことを話し合いました。

お互いに忌憚なくアドバイスをしあったりする中で、それぞれの価値観や考え方をすることもでき、信頼関係が徐々に生まれていきました。

インターンシップだけでは終わらない、一緒にいて心地のよい仲間になれたのではないかと考えています。

●たくさんの人との関わりを通じて、「自分らしさ」の大切さに気付くことができたのが、SBIに参加して得た一番の収穫です。

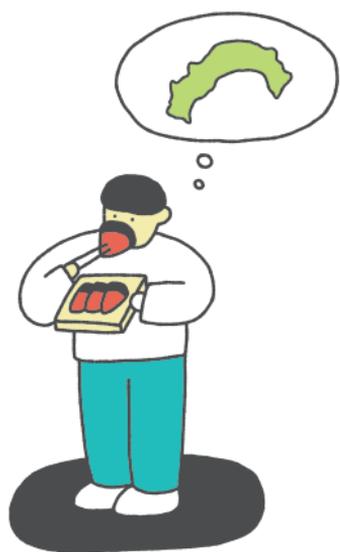
●自分ができないと思っていたことも、やってみるとできるようになることが分かり、自分が今まで挑戦しないうまく諦めてしまっていたことに気づきました。はじめから無理だと諦めている限りは、絶対にできないままなんだ、ということを実感しました。

●SBIに参加して得た最大の収穫は、「振り返り」をすることで気付くことがたくさんあるということです。

SBIの終了後も、定期的に自分自身の「振り返り」の時間を取るようにしています。

●就職活動を行っている期間中、私は働きやすい環境だとか、自分に向いている職種にばかり目を向けていたのですが、SBIに参加してそれだけを判断材料にはいけないということがわかりました。

重要なことは、就職先の企業理念や上司・周囲の人の価値観に自分の価値観がフィットするかといったことに気づくことができました。



# 希望創発センター

Center of Education and Research for Hope-Emergence

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1

高知大学 学務課 学習・研究サポート係

TEL: 088-844-8440

E-mail: gm26@kochi-u.ac.jp



高知大学 希望創発



<https://www.kochi-u.ac.jp/kibou-souhatsu/>